

解剖室での不敬： 美容外科医解剖セミナー事件から考える

齊尾 武郎*

フジ虎ノ門整形外科病院内科・精神科

Profanities in anatomy labs: A consideration around the unethical conducts of a Japanese cosmetic surgeon in a clinical anatomy practice

Takeo Saio *

Department of Internal Medicine and Psychiatry, Fuji Toranomom Orthopedic Hospital

Abstract

Background : In December 2024, a Japanese cosmetic surgeon was criticized for posting pictures of cadavers to her blog as unethical practice. The pictures were taken at her clinical anatomy training held overseas.

Purpose : To summarize profanatory behaviors of anatomical trainees in anatomy labs.

Method : Narrative non-systematic review on profanatory behaviors of anatomical trainees.

Results : Medical students rarely behave such manners that undermine the dignity of the dead who donated their body for cadaver dissection to serve anatomical education. Those immodest behaviors like dirty jokes with cadavers or application of either the parts or the whole of the corpse to irreverent conducts are referred to as cadaver antics. The perpetrator's purpose of cadaver antics includes coping behaviors against anatomy lab associated stress or solidification of team bonding with fellows at medical schools. Cadaver dissection had been regarded as one of the rites of passage with medical students until recently, and expressing macho joke-about-death performance had been deemed to show their fearlessness to corpses.

Discussion and conclusion : In Japan, both academic literature and discourse on the internet infrequently describe profanatory behaviors of anatomical trainees, and those misdemeanors are occasionally explained as merely inconceivable, unrealistic urban legends which do not dovetail with our literature review in this article. Extraordinary experience with dissection might evoke temporary mood elevation which could inspire those kinds of profanatory behaviors. And overwhelming stress with cadaver dissection could possibly bring on brief reactive psychosis to medical students once in a great while which would come to thoughtless acts. Also, formalin used to treat cadavers might have psychotoxic property which cause a couple of transient psychiatric symptoms. Because profanatory behaviors of anatomical trainees seldom come to the fore, it is hard to perform field surveys as well as precautions of profanities in anatomy labs which indicates the need for alternative methods to cadaver dissection to teach gross anatomy.

Key words

cadaver antics, rite of passage, medical ethics, anatomical education

Rinsho Hyoka (Clinical Evaluation). 2025 ; 53(1) : 213-8.

* K & S 産業精神保健コンサルティング (K&S Consulting Office for Occupational Mental Health)

1. はじめに

2024年12月、我が国のベテランの美容外科医が自身の参加した海外で実施された臨床解剖研修について、解剖研修室内を背景に研修に参加している他の複数の医師とともに、自身が笑顔でピースをしている写真などを含む複数の写真をコメントとともに自身のブログやInstagramにアップロードしてインターネットで公開していることが、非倫理的であるとして問題となった¹⁾。公開された写真の中には、解剖中の献体の頭部の画像もあり、そのほとんどにモザイクがかけられていたものの、一部はモザイクが外れていた²⁾。この問題に対し、同年12月末に日本美容外科学会 (Japan Society of Aesthetic Plastic Surgery: JSAPS)³⁾、日本美容外科学会 (Japan Society of Aesthetic Surgery: JSAS)⁴⁾ が、2025年1月中旬に日本形成外科学会⁵⁾ がそれぞれ声明を发出し、また、2024年12月末には日本解剖学会が2013年8月に发出された日本解剖学会・日本病理学会・日本法医学会の3学会理事長合同の提言⁶⁾ を再度ホームページに掲載して注意を促している (なお、日本美容外科学会という和文名称の学会は2つ存在するが、それぞれの英文名称が異なるので、和文名称は同じではあるが別団体である)。

その後、日本解剖学会・篤志解剖全国連合会がこの問題の再発防止のための声明文⁷⁾ を2025年2月2日に全国医学部長病院長会議事務局、歯科大学歯学部長会議、文部科学省医学教育課医学教育係、厚生労働省医政局医事課、日本外科学会CST推進委員会、ならびに篤志解剖全国連合会団体部会・大学部会に送付し、さらに2025年3月、篤志解剖全国連合会会長・日本篤志献体協会理事長・日本解剖学会理事長連名で「献体解剖倫理指針」⁸⁾ を发出した。

この美容外科医の行動は、非倫理的で臨床解剖研修に用いられた献体の尊厳を損ねるものであると厳しく指摘されても仕方がないであろう。しかし、医学生への解剖実習では、しばしば献体・遺体に対

するより深刻で不敬な言動が行われることが知られており、「死体に対する悪ふざけ」(cadaver antics) として知られている⁹⁾。従って、こうした問題を予防・再発防止するためには、解剖研修・解剖実習の持つ非日常性とそれをもたらす異常心理・問題行動の成り立ちを考慮する必要がある。そこで本稿では、この問題を考える補助線の一つとして、以下に「死体に対する悪ふざけ」等、解剖研修・解剖実習の際に生じる献体・遺体に対する不敬行為を文献的に考察するものとする。

なお、本論の契機となった事案は医師による臨床解剖研修における不敬行為であるが、医学領域の学術文献の検索によって得られる情報のほとんどは系統解剖実習における不敬行為であり、その多くは医学生によるものではあるが、文献の元となる調査の対象者に解剖スタッフ (研究者、技術スタッフ等) や医療専門職教育プログラムの修了者を含んでいるものもある¹⁰⁾。医師による臨床解剖研修はその機会自体が稀で、今回の海外で実施された美容外科医解剖セミナーに係る事案は、日本で医学生等の教育のための系統解剖実習に供される献体・遺体の需要がほぼ充足し、教育以外にも献体・遺体を用いた研究や卒後研修の途が拓かれはじめた時機に発覚した不祥事であり¹¹⁾、国内外での実施様態・歴史的背景も医学生等の系統解剖実習とは異なるため、今後さらに掘り下げた情報検索と分析を必要とする。本論では、学術文献検索により得られた医学生を中心とした系統解剖実習に関する情報と、今回の医師による臨床解剖研修における不敬行為に対する報道・関連学会の見解等の公表情報に基づき、前者を後者の事案の発生要因の一つと類推して考察する。

2. 献体・遺体に対する不敬

「死体に対する悪ふざけ」は「死体話」(cadaver stories) とも呼ばれ、医学生が解剖実習中やそれ以外の時間に、献体・遺体の全体や一部を下品なジョークの材料として用いて (その際に、それらを道具として使ったり、それらに言及したりす

る)、献体・遺体に対して不敬な言動をすることを指し(その具体例、類型については、ここでは詳述しない)、決して稀ではない^{10, 12)}。多くの場合、実習する医学生同士の仲間内での会話・行為として行われるが、一般人が悪ふぎの被害者となることもある。このような不敬な言動は、死体解剖による心理的ストレス(anatomy lab associated stress)への対処行動であったり、実習仲間の結束(team bonding)のために行われたりする¹⁰⁾。

献体に対する不敬には、この他、学生や大学スタッフによる献体の写真の不適切使用・配布¹³⁾(今回の美容外科医解剖セミナー事件はこれに包含されるかもしれない)、解剖実習の指導者の献体に対する敬意を欠く姿勢^{14, 15)}などの報告がある。なお、解剖実習で献体に名前を付けること(cadaver naming)に対しては、それが故人の尊厳を侵すとする考えがある一方、実習生の心理的ストレスの低減(ストレス対処行動)や故人の尊厳を高めることにつながるという考えがある¹⁶⁾。また、解剖学を含め、医学知識の記憶術として、医学生等が下品なジョークを用いること(dirty mnemonics)¹⁷⁾も多いが、これにも賛否両論ある¹⁰⁾。

「死体に対する悪ふぎ」は、近年まで医師になるための通過儀礼の一つと考えられていた。すなわち、医師たる者、人間の死を恐れず、笑い飛ばせるくらい精神的に強くなければならない(macho joke-about-death performance)とされていたのである。しかし今日では、さまざまな労働環境や背景を持つ医師が存在し、以前なら医師同士の内輪話のジョークとして済まされていたものが笑い話では済まされなくなり、こうしたあからさまな蛮勇は廃れていったとされている⁹⁾。

3. 考察

冒頭で述べたように、系統解剖実習に関連した不敬行為についての文献は、いずれも医学生を中心とした調査研究ではあるが、系統解剖実習に関

わる様々な職種や解剖実習経験者を調査対象に含んでおり、また、医学生以外の調査対象者の医師資格の有無は明示されていない。本稿は、医師による臨床解剖研修の問題事案を分析するには限界があるが、得られた情報の範囲で、こうした不敬行為の発生要因、防止策について考察する。

医学生が系統解剖実習中に、時に献体・遺体に対し、不敬な言動をすることがあることは、国際誌に発表された医学文献ではさまざまな分析がされている。しかし和文の医学文献ではこうした課題についての考察が検索した限りでは見出されず、我が国のインターネット上の言説では、これを信憑性の非常に低い都市伝説であるとする¹⁸⁾ことが多く、それが実際に医学部の卒前教育の中で実行されていることを明らかにした証言は、著名な医師の執筆した記事が僅かに1つあるのみであった¹⁹⁾。医師が自らの学生時代の解剖実習中に同級生がこうした行動をしたのを見た証言することは、他学部に比べ人数の少ない医学部では、当該行為を行った人物の同定につながり、その人物が医学生時代の行動に関し厳しく糾弾されることになりかねないため、多くの場合、医師が医学生の不敬行為に関し、自らの見聞きした事実関係を述べることは躊躇するであろう。

そこで、文献検索によって得られた英文論文で扱われている事項が、解剖実習にまつわる噂話・伝聞に過ぎないのか、それとも実際に行われていることなのか、会話だけなのか、それとも実際に不敬行為を伴うものなのかを意識しながら各論文^{9, 10, 12)}を読解したが、各論文の記載からは、現実こうした不敬な言動は、解剖実習では少なからず見られる現象だと考えられる。

これは科学者として、生命現象に対する人体・要素還元主義的な理解を必要とする近現代医学の眼差し²⁰⁾を修得する上で、一時的にせよ、遺体をモノとして扱うことになるため、ある程度起き得る状況である。しかし、献体・遺体に対する不敬な態度・言動は到底、医の倫理からは容認することではない。非倫理的な行為であることが、一般常識を持つ人であれば誰にでも容易に分かる

ほどのことを、医学生にせよ、医師にせよ、しばしば犯してしまう可能性があることを前提にこうした献体・遺体に対する不敬な態度・言動の発生予防策を考えなければならない。

系統解剖実習は、出産への立会い²¹⁾、患者の診取り（死亡確認）への初めての立ち合い²²⁾などと並び、医師になるための通過儀礼となっている（医師の通過儀礼には、この他、白衣授与式²³⁾、過酷な卒後教育²⁴⁾、医学生が病気を学んだときに自身がその病気に罹患しているのではないかと気に病む病氣不安症である「医学生炎」(medical studentitis)²⁵⁾ などがある）。ただし、医師になるための通過儀礼というものが必要かどうかについて、あるいはこれらが通過儀礼なのかどうかにも、たとえば白衣授与式などでは異論はある。特に系統解剖実習は通過儀礼にしてはあまりにも精神的に過酷で、心的外傷後ストレス症 (posttraumatic stress disorder : PTSD) 様の症状を生じる者が少なくない（1990年の古い文献だが、DSM-ⅢのPTSDの症状として挙げられている項目のいずれかを呈する医学生が解剖実習を受けた者の5%強（回答者175名中10名）ほど存在したという報告²⁶⁾がある）ので、人体解剖の教育のための系統解剖実習の代替となる手段を開発するべきかもしれない²⁷⁾。一方で、作業療法科の学生に対する系統解剖実習がPTSD症状をむしろ減らし、学業に影響を与えなかったという報告もある²⁸⁾。

系統解剖実習は通過儀礼とされているように、解剖実習という非日常的な体験を通じて医師という特殊な職業に従事するメンタリティーを涵養する。その際にこの非日常的体験に対する一過性の気分の昂揚²⁹⁾や、場合によっては短期反応精神症（DSM-5-TRではF23とコーディングされる）（すなわち、短期精神症、明らかなストレス因がある）が当事者たる解剖実習生（医学生、あるいは医師）に生じる可能性はあるのではないかと。あるいは献体・遺体を漬けてあるホルマリンに解剖実習生が曝露することにより、精神症状（幻覚、抑うつ、不安、失見当識、妄想、攻撃性など）が解剖実習生に起きる可能性もあろう^{30, 31)}。

献体・遺体に対する不敬は表面化しにくく、また、調査方法（参与観察、面接調査、自記式質問票調査など）による制約と結果の外挿性の問題、さらには調査することに関する倫理性にも多くの課題（被調査者に与える心理的ストレス、結果の公表の是非など）があり、実態調査にはさまざまな困難が伴うと考えられる。また先に述べたように、非倫理的な行為であることが一般常識を持つ人であれば誰にでも容易に分かるほどの不敬な言動を医学生や医師が犯してしまうとなると、常識的な発生予防策（たとえば解剖実習に際し、不敬な言動を厳に慎むよう医学部教員が頻繁に注意を促したり、誓約書を医学生に書かせ、それを何度も朗読させるなど）に、いかほどの有効性があるかは疑問である。すなわち、常識的に悪い言動・不道德な行為であることが分かることであるにも関わらず、なぜ問題行動を起こしてしまうのかを再検討する必要がある。

本稿でまとめたような解剖実習の持つ非日常性とそのもたらす異常心理、医学教育文化を踏まえた上で、どのように発生予防策を立案し、その有効性を担保するかはかなりの難問であろう。こうした実態調査や発生予防策に関し、予想される様々な困難、また実習生に与える多大な心理的ストレスを考えると、むしろ、解剖実習の代替方法を模索すべきかもしれない。近年では、精巧な人体模型³²⁾やコンピューター・シミュレーション技術³³⁾を用いた系統解剖実習の代替法が開発・実践され、その効果についての評価も行われており、日本でも紹介³⁴⁾されている。こうした技術開発がさらに進むことが望まれる。

利益相反

本稿の内容に関し、申告すべき利益相反はない。

文 献

- 1) 解剖現場でピース 医師が投稿し謝罪「人としての倫理観欠如」。NHK News Web. 2024年12月25日。
- 2) 献体写真に「頭部がたくさん並んでる」と添え...

- 美容外科医の「解剖実習」投稿が波紋. Jcast ニュース. 2024 年 12 月 25 日 [cited 2025 Jan 10]. Available from : <https://www.j-cast.com/2024/12/23499758.html>
- 3) 門松香一 (一般社団法人日本美容外科学会 (JSAPS) 理事長). 美容外科医師によるご遺体の解剖に関する不適切な行動の報道について. 日本美容外科学会 (JSAPS). 2024 年 12 月 26 日 [cited 2025 Jan 10]. Available from : <https://www.jsaps.com/docs/info/20241226.pdf>
 - 4) 鎌倉達郎 (一般社団法人日本美容外科学会 (JSAS) 理事長). 美容外科医師によるご遺体の解剖に関する不適切な行動について. 日本美容外科学会 (JSAS). 2024 年 12 月 28 日 [cited 2025 Jan 10]. Available from : <https://jsas.or.jp/wp-content/uploads/2024/12/JSAS%E5%A3%B0%E6%98%8E%E6%96%8720241228.pdf>
 - 5) 一般社団法人日本形成外科学会 理事会. ご遺体を用いた医療技術講習会における不適切な行動の報道について. 2025 年 1 月 15 日 [cited 2025 Jan 15]. Available from : <https://jsprs.or.jp/news/wp-content/uploads/2025/01/20250115.pdf>
 - 6) 河田光博 (一般社団法人日本解剖学会 理事長), 深山正久 (一般社団法人日本病理学会 理事長), 池田典昭 (特定非営利活動法人日本法医学会 理事長). 人体および人体標本を用いた医学・歯学の教育と研究における倫理的問題に関する提言 (平成 25 年 8 月 1 日). 日本解剖学会ホームページ. 2024 年 12 月 27 日再掲載 [cited 2025 Jan 10]. Available from : https://www.anatomy.or.jp/file/pdf/guideline/proposal_130802.pdf?20250106
 - 7) 日本解剖学会・篤志解剖全国連合会. 健全な解剖学教育・研究の継続のために一解剖体取扱い不適切事案の再発防止に向けて. 2025 年 2 月 [cited 2025 May 25]. Available from : https://www.anatomy.or.jp/file/pdf/2023/230210_03.pdf
 - 8) 篤志解剖全国連合会会長 佐藤二美, 公益財団法人日本篤志献体協会理事長 坂井建雄, 一般社団法人日本解剖学会理事長 寺田純雄. 献体解剖倫理指針. 2025 年 3 月 [cited 2025 May 25]. Available from : https://www.anatomy.or.jp/file/pdf/guideline/ethics_202503.pdf
 - 9) Watson K. Gallows humor in medicine. *Hastings Cent Rep*. 2011 ; 41 (5) : 37-45.
 - 10) Dueñas AN, Kirkness K, Finn GM. Uncovering hidden curricula: use of dark humor in anatomy labs and its implications for basic sciences education. *Medical Science Educator*. 2020 ; 30 : 345-54.
 - 11) 香西豊子. 屍体をめぐる「倫理」—医業に対する社会的要請と自戒の歴史から. 思想. 2025 ; (1213) : 34-55.
 - 12) Hafferty FW. Cadaver stories and the emotional socialization of medical students. *J Health Soc Behav*. 1988 ; 29 (4) : 344-56.
 - 13) Cornwall J, Callahan D, Wee R. Ethical issues surrounding the use of images from donated cadavers in the anatomical sciences. *Clin Anat*. 2016 ; 29 (1) : 30-6.
 - 14) Hildebrandt S. Thoughts on practical core elements of an ethical anatomical education. *Clin Anat*. 2016 ; 29 (1) : 37-45.
 - 15) Terry M. Dear Joseph. *Pulse: voices from the heart of medicine*. 2014 Feb 21 [cited 2025 Jan 19]. Available from : <https://pulsevoices.org/stories/dear-joseph/>
 - 16) Williams AD, Greenwald EE, Soricelli RL, DePace DM. Medical students' reactions to anatomic dissection and the phenomenon of cadaver naming. *Anat Sci Educ*. 2014 ; 7 (3) : 169-80.
 - 17) Varkey TC. "Watch your language": a literature review on the use of dirty words in improving memory for adult learners. *ProClinS Psychiatry*. 2021 ; 1 (1) : 1001.
 - 18) Anonymous. 医学部の解剖実習で本当にあった? 怖い話. 医学部勉強.com [cited 2025 Feb 1]. Available from : <https://医学部勉強.com/2017/04/20/医学部の解剖実習で本当にあった? 怖い話/>
 - 19) 谷口 恭. 我々は「患者を『モノ』と見ていない」と言い切れるか. 日経メディカル. 2025 年 1 月 29 日 [cited 2025 Jan 31]. Available from : <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/shintaniguchi/202501/587282.html>
 - 20) 辻 陽雄. 医学・医療の進化と 21 世紀の課題 : 7,300 日の所感と反省から. 富山医医薬大医誌. 1998 ; 11 (1) : 30-5.
 - 21) van der Waal R, Mitchell V, van Nistelrooij I, Bozalek V. Obstetric violence within students' rite of passage: The reproduction of the obstetric subject

- and its racialised (m)other. *Agenda*. 2021 ; 35 (3) : 36-53.
- 22) Wald HS, Reis SP, Monroe AD, Borkan JM. 'The loss of my elderly patient:' interactive reflective writing to support medical students' rites of passage. *Med Teach*. 2010 ; 32 (4) : e178-84.
- 23) Nash DA. On the symbolism of the white coat. *J Dent Educ*. 2014 ; 78 (12) : 1589-92.
- 24) Nuthalapaty FS, Carver AR, Nuthalapaty ES, Ramsey PS. The perceived impact of duty hour restrictions on the residency environment: a survey of residency program directors. *Am J Obstet Gynecol*. 2006 ; 194 (6) : 1556-62.
- 25) Tutorskaya M. Medicalstudentitis as a rite of passage in popular literature. In : Farkas CA, ed. *Reading the Psychosomatic in Medical and Popular Culture*. Abingdon and NY : Routledge ; 2017. p. 101-12.
- 26) Finkelstein P, Mathers L. Post-traumatic stress among medical students in the anatomy dissection laboratory. *Clinical Anat*. 1990 ; 3 : 219-26.
- 27) McLachlan JC, Patten D. Anatomy teaching: ghosts of the past, present and future. *Med Educ*. 2006 ; 40 (3) : 243-53.
- 28) Curfman SE, Austin GP, Nicholas JS. Post-traumatic stress and academic performance among entry-level doctoral physical therapy students in a human anatomy cadaver dissection course. *The Internet Journal of Allied Health Sciences and Practice*. 2018 ; 16 (3) : Article 1.
- 29) Greene SJ, Rosen L. Tracking medical student emotionality in relation to whole body dissection and donation. *Clin Anat*. 2021 ; 34 (1) : 128-42.
- 30) Makowski EC, Ordoñez LA. Behavioral alterations induced by formaldehyde-derived tetrahydroisoquinolines. *Pharmacol Biochem Behav*. 1981 ; 14 (5) : 639-43.
- 31) Marceaux JC, Dilks LS, Hixson S. Neuropsychological effects of formaldehyde use. *J Psychoactive Drugs*. 2008 ; 40 (2) : 207-10.
- 32) Sindel M, Özsoy U, Alkan E, Öztürk S, Arican RY, Demirel BM, Oğuz N, Şenol Y. The impact of a clinical anatomy training and research unit in graduate and postgraduate medical education. *Teaching Anatomy*. 2019 ; 13 (3) : 205-10.
- 33) Odogwu TS, Abuelgassem Hagahmed Mohamed E, Mishu L, Umahi I. Effect of virtual reality simulation on anatomy learning outcomes: a systematic review. *Cureus*. 2025 ; 17 (4) : e81893. doi: 10.7759/cureus.81893.
- 34) 吉川 輝, 大澤三和, 榎田めぐみ. 仮想解剖実習台 Anatomage Tableを活用した解剖学・生理学の新たな教育方略の紹介. *モダンメディア*. 2024 ; 70 (5) : 143-56.

(投稿日：2025年2月14日)

(受理日：2025年5月27日)

* * *